

陳情第177号	受理年月日	令和5年12月1日
付託委員会	建設建築委員会	
件名	初代門司港駅跡関連遺構の保存について	
要旨	<p>北九州市が北九州市立地適正化計画の後を受けて策定した門司港地域複合公共施設整備事業を進めている中、先般、現門司港駅東側の建設用地内で発掘調査が行われ、初代門司港駅跡関連施設の基礎を示す様々な地下遺構が見つかった。</p> <p>1891年の構内図に照らしても、寸分違わない位置に機関車庫のコンクリート基礎とその上に積まれた赤レンガ外壁や、開業当時の駅舎の外郭をめぐる石垣とそれに重複する形で築かれた2代目駅舎跡、また使用燃料廃棄場とみられる石炭ガラを集積も見つかり、まさに往時の九州鉄道起点駅の姿をほうふつとさせる。</p> <p>機関車庫は地形の変化に応じて基礎工法を変えており、建設技術の進化と変遷が見て取れ、近代日本を支える鉄道産業の歴史を物語る貴重な発見となった。</p> <p>11月19日午前、午後2回の現地説明会では、鉄道ファンだけでなく、たくさんの門司区民や北九州市民、県内外の文化財関係者、建築設計技術者など、500人以上の見学者が訪れ、この遺跡の関心の高さを示している。</p> <p>しかし、本調査区は門司区役所をはじめ、幾つかの公共施設の機能が統合・集約された新規高層建物の建設予定地にあるため、見つかった貴重な遺構は、その基礎杭埋設工事のため、ほとんどが壊されてしまうのではないかと危惧している。</p> <p>国の重要文化財に指定され、数年前改修工事を終えたばかりの門司港駅舎は、北九州市観光の目玉にもなっている人気スポットであるが、その原型である初代門司港駅跡が見つかったことは、現在九州鉄道記念館として公開している九州鉄道本社本館とともに機能し、近代日本産業の動脈と頭脳となり、やがて、世界遺産にもなっている官営八幡製鉄所の</p>	

(続 く)

創設につながっていった。

30年ほど前、東京の汐留遺跡として発掘調査された旧新橋停車場は、駅舎やプラットホームをはじめとして、機関車庫、客車庫、転車台などが見つかри、現在では国指定史跡として、駅舎も復元されている。

また、近年では、2019年に東京都品川区で高輪築堤と呼ばれる、海を埋め立てて鉄道を通した遺構（基礎石垣）が、再開発工事中に約900メートルにわたって発見され、その一部は早くも2021年、歴史上や学術的に価値の高い遺跡として国の史跡に指定され、現地に保存されている。

初代門司港駅跡関連遺構の発見は、まさに明治日本の石炭産業を物流面で支える原点とも言え、世界遺産の構成資産にも匹敵する価値を有していると考ええる。

以上のことから、今回見つかった初代門司港駅跡の遺構を現地にて保存し、整備して後世に伝えるべく、必要な措置を講じていただくために、以下のとおり陳情する。

- 1 今回の発掘調査で検出された初代門司港駅跡関連遺構を現地にて保存し、将来的には現門司港駅舎、九州鉄道記念館とともに一体感のある近代遺産として整備すること。
- 2 現在進行中の門司港地域複合公共施設整備事業用地については、遺跡保護の観点から共存は難しいと考えるため、抜本的に見直すこと。
- 3 初代門司港駅跡関連遺構を、北九州市観光の目玉となっている門司港レトロを構成する近代建造物群とも有機的に整備し、周遊性を持たせた町づくりを行うこと。